

## 西上州：裏妙義縦走

- ◆日程 2023年10月22日(日)
- ◆メンバー L: TY、WY、DT、OT、IZ、SD
- ◆天候 晴れ

2023年は山の会で西上州に頻繁に通った年となった。4月の鋏柄岳、6月の金鷄山・筆頭岩、7月の表妙義縦走、10月の裏妙義木戸壁右カンテ、そして今回の裏妙義縦走。もともとは八海山屏風道を予定していたが前日の降雪で見合わせ、趣の似た岩場の山ということで転進した。

妙義山は300万年前の火山活動により形成した安山岩および礫岩・泥岩・凝灰岩からなる溶岩体とされる。私的な思い出であるが山の会に入る直前の雲ノ平周回へむかう信越道で車窓から初めて目にし「なにコレここ日本??」と驚愕し戦慄した。その時は山名も知らずまさか登山の対象になる山とは思っていなかった。地図を眺めても今一つ概念が把握しづらかったが、愛読する「関東百名山」(山と溪谷社、2019年)にある「碓氷川の支流・中木川を隔てて右岸は表妙義、左岸は裏妙義」という説明がしっくりきた。

暑い9月をやり過ごし、10月も半ばにあわただしく秋が訪れた週末。朝の空気が冷たい中、集合。木戸壁右カンテとりつきに立ち寄り、ところどころ水が流れる巨岩ゴロゴロの籠沢沿いに高度をあげていく。稜線に出て間もなくハンマーヘッドのような丁須の頭、基部は3人立つといっぱいの狭さ。その後も20m鎖のチムニーの下降、赤岩の絶壁下トラバース、一部崩れた栈道と高度感のある危険箇所が続き、基本に忠実に通過していく。風はやわらかく雲もない日射しのおかげで、日なたであればあたたかく紅葉し始めた木漏れ日が明るい。烏帽子岩を巻いた後に大休憩。かなりの数の蜂に周囲を囲まれるが攻撃してくる様子はない。

余裕があれば女道分岐から谷急山ピストンをと計画していたが、時間的に終盤ヘッデンを使うことになると見込み、分岐から下山した。尾根とピークと谷の形、コンパスを見て地図読みをしながら下っていく。最後の休憩をとった谷急沢出合は、小滝状の沢床を流れる水が午後の陽に輝き素晴らしく美しい場所だった。いっぽうで山の陰に入ると14時なのに昼なお暗いという表現がぴったりの谷。荒々しい岩をまとった山は実に様々な表情を見せる。(記: IZ)

CT: 国民宿舎裏妙義跡地 8:20 - 丁須の頭 10:00/11:00 -

赤岩 11:50 - 烏帽子岩 12:10/30 - 女道分岐 13:10 -

谷急沢出合 13:45 - 国民宿舎裏妙義跡地 15:10

